

NPO 法人 福岡排泄改善委員会  
排泄ケア認定証 レポート(記入例②)

記入日 : \*\*\*\* 年 \*\* 月 \*\* 日

申請者 : \*\*\* \*\*\*

● 事例報告

年齢 : 85 歳 性別 :  男 · 女

既往歴 : 脳梗塞 70 歳 胃癌術後 72 歳

内服薬 : オダイン錠 125 mg 1 日 3 回 朝/昼/夕 食後

日常生活自立度 :  を入れてください

- ・ 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)<sup>※1</sup>  自立  J1  J2  A1  A2  B1  B2  C1  C2
- ・ 認知症高齢者の日常生活自立度<sup>※2</sup>  自立  I  IIa  IIb  IIIa  IIIb  IV  M

事例紹介 :

前立腺癌の浸潤により尿道からの排尿が困難となり膀胱瘻造設をされていた。膀胱瘻造設後しばらくして腫瘍の増大があり膀胱瘻カテーテル脇より尿漏れが増えてきたことで強く苦痛を感じていた。また、尿漏れに対し、ガーゼを使用していたが、吸収が悪いためオムツを使用したが 2 時間おきの交換を行っていた。そのため、頻回のガーゼ、オムツ交換により夜間も入眠できず疲労感を訴えた。また患者はオムツを使うことの屈辱感を話されまた、コスト面での不安も訴えた。

排泄状況 :  を入れてください

- ・  自立  見守り  一部介助  全介助
- ・  トイレ  ポータブル  尿便器  オムツ  導尿  バルーン留置  その他 ( )

考えられる問題点 :

尿漏れに対する不快感があり、尿漏れに対するセルフケアにより疲弊している。

オムツ使用に対する屈辱感があり、コスト面での不安もある。

排泄状況を改善するために工夫したこと：

脇漏れに対し、パウチングで対応する方法を試みた。カテーテルより流出する尿量と漏れる尿は同量程度であるが、ドレナージ目的も含めカテーテル留置は継続が必要であった。その為、カテーテルごとパウチングを行うこととした。そのために、ストーマ袋の寸法を考え、カテーテルを短めのものを選択する必要があった。当初 腎盂バルーン 20Fr が留置されていたため、構造と素材が同等のカテーテルである胃瘻カテーテルを代用できると考え、施行した。その後 2 ピース凸面のプレカットタイプを選択し、パウチングを開始した。

結果：

本人より苦痛軽減の発言がきかれたため、パウチング継続となった。本人へ通常のストーマ交換の手順にあわせ、胃瘻チューブをストーマ袋内に入れ込むために装着前に逆流防止弁を破ること、面板装着時にカテーテルから尿が流出すると装着しづらいため、カテーテル先端にキャップをして交換することを指導し、パウチングの流れを説明しながらケアを施行した。徐々にセルフケア獲得が可能であった。尿漏れに対する不快感、頻回のオムツ交換に伴うコスト面の不安も解消され、また夜間も良眠できるようになった。

考察：

膀胱瘻からの尿の脇漏れ高齢者のオムツに対する屈辱感やガーゼ汚染時の不快感を訴える患者に対しパウチングが有効であった。通常 カテーテルやドレーンの保護や脇漏れに対し、ガーゼを使用する。しかし、ガーゼが汚染することでの不快感や苦痛は強く、A 氏にとつては耐え難いものであったため、尿の脇漏れに対する対策として、通常 ストーマ造設患者が使用する装具を用いてパウチングすることで A 氏の苦痛が軽減されたと考えられる。